

# Economic Indicators

発表日: 2024年7月18日(木)

## 貿易統計(2024年6月)

~4-6月期の実質輸出は小幅プラスに留まる~

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

	貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量					
	原数値	季調値	金額		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
			輸出金額	輸入金額								アメリカ	EU
23年	6月	365	▲5,226	1.5	▲13.1	▲4.0	3.9	1.3	▲14.1	▲7.4	▲14.0	4.9	▲13.9
	7月	▲613	▲5,095	▲0.3	▲14.1	▲2.8	9.4	1.0	▲15.8	▲6.1	▲12.0	15.6	▲16.1
	8月	▲9,401	▲4,891	▲0.8	▲17.7	▲5.3	3.8	1.1	▲15.2	▲9.1	▲9.5	5.1	▲13.8
	9月	606	▲3,849	4.3	▲16.5	0.2	8.6	▲0.6	▲12.5	▲3.9	▲12.9	▲6.2	▲1.6
	10月	▲6,682	▲3,625	1.6	▲12.4	▲3.4	8.8	0.4	▲9.4	▲3.3	0.1	1.0	▲2.3
	11月	▲7,883	▲3,558	▲0.2	▲11.8	▲5.6	3.4	▲11.8	▲9.9	▲3.4	2.6	0.4	▲3.3
	12月	589	▲5,078	9.7	▲6.8	2.9	16.9	2.2	2.7	▲3.1	▲5.5	▲13.8	▲0.6
24年	1月	▲17,665	▲440	11.9	▲9.7	2.3	7.1	▲0.2	20.4	▲8.4	▲3.8	▲22.1	▲9.2
	2月	▲3,830	▲5,746	7.8	0.6	▲1.5	10.9	3.5	▲7.1	1.3	6.7	▲3.1	12.6
	3月	3,824	▲7,038	7.3	▲5.1	▲2.1	1.8	▲6.5	0.9	▲9.7	▲2.2	▲1.1	▲19.4
	4月	▲4,713	▲6,045	8.3	8.4	▲3.2	▲2.3	▲13.7	▲5.1	0.7	16.2	▲0.4	1.8
	5月	▲12,201	▲6,443	13.5	9.5	▲0.9	6.7	▲17.9	▲0.4	▲1.9	13.0	▲2.6	3.8
	6月	2,240	▲8,168	5.4	3.2	▲6.2	▲2.8	▲20.1	▲8.8	▲8.9	5.1	▲5.9	▲5.6

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○貿易収支(季節調整値)は赤字基調が継続

財務省より発表された6月の貿易統計では、輸出金額が前年比+5.4%(事前予想:同+6.6%)、輸入金額が同+3.2%(事前予想:同+9.0%)、貿易収支は2,240億円の黒字(事前予想:▲2,440億円の赤字)となった。輸出、輸入どちらも事前予想を下回る弱い結果だった。輸出、輸入ともに、円安を背景にした物価上昇を反映して価格ベースが押し上げる一方、国内外の財需要の弱さを反映して数量ベースでは前年比減少が続いている(輸出:価格+12.3%、数量▲6.2%、輸入:価格+13.3%、数量▲8.9%)。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲0.2%(5月:同+1.2%)、輸入金額が同+1.6%(5月:同+1.6%)となり、貿易収支は▲8,168億円の赤字(5月:▲6,443億円の赤字)と赤字幅が拡大した。

### ○4-6月期の実質輸出は小幅プラス。前期の落ち込みを取り戻すに至らず。

物価変動の影響を除いた実質輸出をみると、前月比+1.7%(5月:同▲2.4%)となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。地域別にみると、米国向けが前月比+1.4%(5月:同+2.0%)、欧州向けが同+4.9%(5月:同▲11.6%)、中国向けが同▲2.4%(5月:同+1.7%)となった。

また、四半期で見ると、4-6月期の実質輸出は前期比+0.4%(1-3月期:同▲2.4%)となった。1-3月期に落ち込んだ後の戻りとしては弱く、実質輸出の停滞感は強い。年明け以降の自動車大幅減産の影響が長期化していることに加えて、欧州向けを中心に海外財需要の減少が下押しとなり、4-6月期も小幅のプラスに留まった。地域別には、米国向けが同+1.9%(1-3月期:同▲2.6%)、欧州向けが同

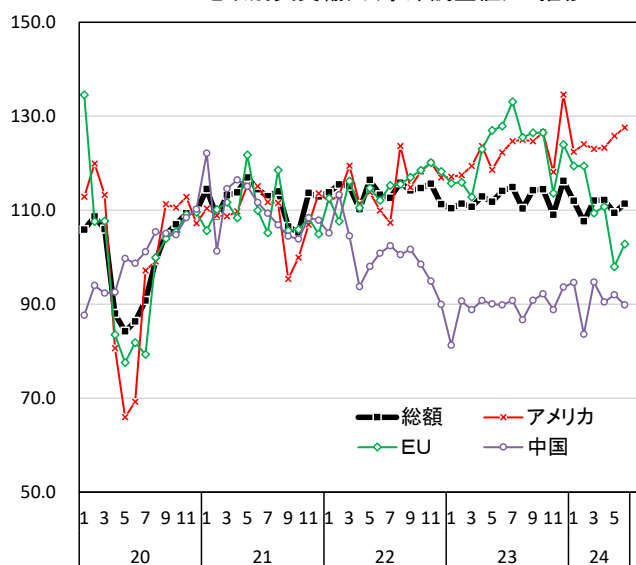
▲10.5%（1-3月期：同▲4.4%）、中国向けが同▲0.2%（1-3月期：同▲0.7%）となった。

主力の輸送用機器は、24年年明け以降の一部自動車メーカーの生産停止の影響を受けて、1-3月期に前期比▲9.3%（対世界）と減少したあと、4-6月期は同+2.0%となり、反発は弱かった。当初の想定よりも自動車生産の正常化に時間を要していることもあるが、海外景気の減速を反映した需要縮小の影響もあるだろう。特に、自動車輸出のウェイトが大きい欧州向けは、24年上半期は減少傾向が鮮明となっており、4-6月期も大幅な減少となったことで、実質輸出全体の下押しとなっている。

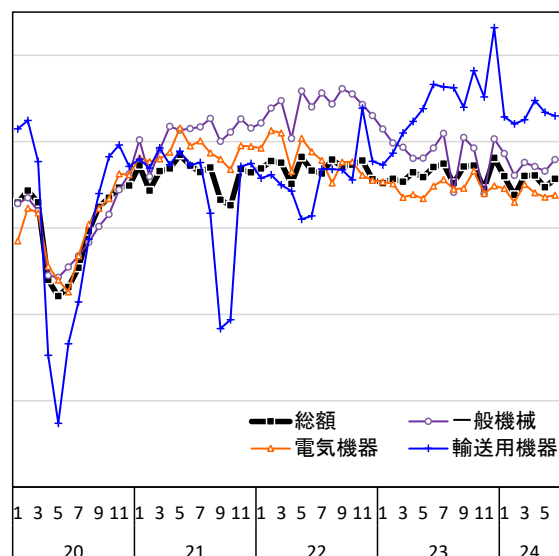
米国向けは、製造業部門の弱さを反映して一般機械の減少傾向が続いているが、主力の輸送用機器や、ハイテク需要の回復による電気機器の持ち直し等が下支えとなり、均せば底堅い動きが続いている。中国向けは、主力の一般機械や金属製品を中心に底入れの動きがみられるものの、依然として水準は低迷したままだ。

先行きは、自動車生産が正常化に向かうとみられるものの、減産前から米国向け、欧州向けでは積み上がり需要の一巡によって自動車輸出の減速感が強まっていたことから、先行きも主力の自動車輸出に力強さは期待できないだろう。足元での世界的なハイテク需要の回復は、一般機械（半導体製造装置など）や電気機器（電子部品や通信機器など）の輸出増に繋がることが期待できるが、明確な動きはまだみられない。長期化する金融引き締めの影響で海外需要は減速しており、実質輸出は7-9月期も回復感に欠ける状況が続きそうだ。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。